

令和8年8月12日

備えることへの大切さ

災害に強い まちづくりについて

総務文教常任委員会

1

本日は、よろしくお願いします。
総務文教常任委員会の重点テーマであります。

『災害に強いまちづくりについて』

約1年間取り組んできました研究の発表を行います。

調査の概要



委 員



調査フロー



2

まずは、調査概要について
委員と調査フローです。

委 員

01 | 委員長 岡田 伴昌
Okada Tomomasa

05 | 委員 松永 隆太
Matsunaga Ryuta

02 | 副委員長 山下 千穂
Yamashita Chiho

06 | 委員 皿海 ふみ
Saragai Fumi

03 | 委員 三浦 美代子
Miura Miyoko

07 | 委員 松村 紘子
Matsumura Hiroko

04 | 委員 黒田 実
Kuroda Minoru

08 | 委員 岡田 智里
Okada Chisato

3

まずは、委員の紹介です。

委員長の私、岡田 伴昌です。

山下 千穂（やました ちほ）副委員長

三浦 美代子（みうら みよこ）委員

黒田 実（くろだ みのる）委員

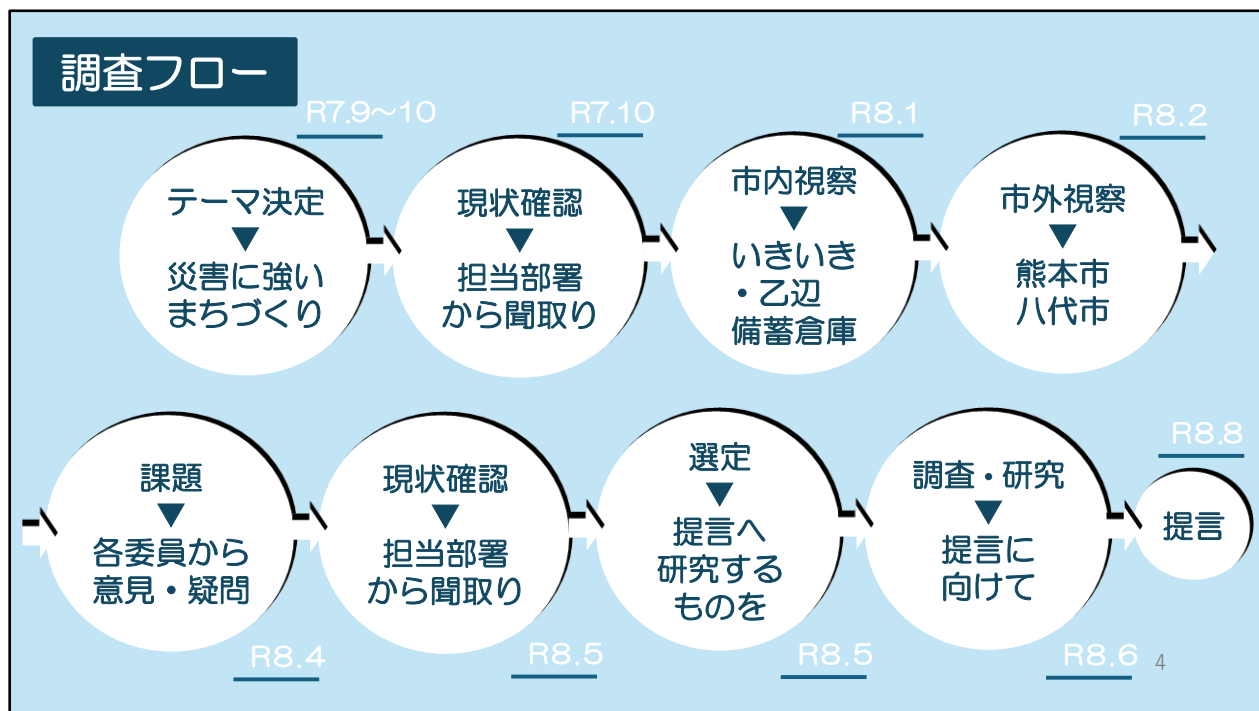
松永 隆太（まつなが りゅうた）委員

皿海 ふみ（さらがい ふみ）委員

松村 紘子（まつむら ひろこ）委員

岡田 智里（おかだ ちさと）委員

の8名です。



次に調査フローです。

まずは、テーマ決定を行い、現状確認、市内視察・市外視察を行い、委員会で振り返りの後、課題抽出をし、課題に対し、現状確認。提言に向けて課題の調査研究を行い、提言となる流れです。

Roadmap

第1部 テーマの背景・現状把握

第2部 熊本地震の経験談と本市の取組み

第3部 課題を明確化!! 住民とともに!!

5

今回は、3部に分けて発表させていただきます。

まず、第1部 テーマの背景・現状把握

次に第2部 熊本地震の経験談と本市の取組み

最後に第3部 課題を明確化!!住民とともに!! です。

Roadmap

第1部 テーマの背景・現状把握

第2部 熊本地震の経験談と本市の取組み

第3部 課題を明確化!! 住民とともに!!

6

初めに、

第1部 テーマの背景・現状把握 です。

第1部

テーマの背景

・現状把握



Key Point ①

市内の防災拠点とは？

Key Point ②

防災倉庫・備蓄物品は？

Key Point ③

避難所運営・避難所計画は？

7

テーマの背景として、
各委員から出ました疑問点や確認したい事項について、
まとめています。

重点テーマの中で

キーポイントとなるものがこちらの3つです。

第1部

テーマの背景

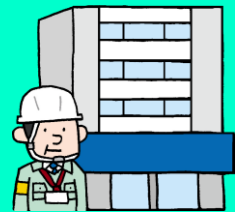
防災拠点の機能は？

市内全体の防災拠点は？

Key Point ①

配置は適正？

市内の**防災拠点**は？



8

キーポイント①、市内の防災拠点は？として

各委員からは、
防災拠点の機能はどのようなものがあるのか？であったり、
市内全体の防災拠点はどうなっていくのか？であったり、
防災拠点・防災倉庫などの配置は適正なのか？
などの疑問点が上がっておりました。

第1部

テーマの背景

備蓄倉庫に備蓄する物品は？

平時の運用は？

備蓄計画の見直しは？

Key Point ②

防災倉庫・備蓄物品は？



9

次にキーポイント②、防災倉庫・備蓄物品は？として

各委員からは、
備蓄倉庫に備蓄する物品には何があるの？であったり、
平時の運用方法はどうなっているの？であったり、
備蓄計画の見直しはするのか？
などの疑問点が上がっておりました。

第1部

テーマの背景

避難所運営マニュアルは？

地区の個別計画は？

復興経験・体験談を聞いてみては？

Key Point ③

避難所運営・避難所計画は？



10

次にキーポイント③、避難所運営・避難所計画は？として

各委員からは、
避難所運営マニュアルは、どうなっているのか？であったり、
地区の個別計画は整備させているのか？であったり、
復興経験・体験談を災害を経験した市に聞いてみては？
などの疑問点・意見が上がっておりました。

これら以外にも多くの疑問点や確認したい事項はありましたが
まずは、危機管理室に現状を確認してみることとしました。

第1部

テーマの背景

・現状把握①

危機管理室から
現状確認を行った。

Point ①

防災計画について

Point ②

防災拠点について

Point ③

備蓄について

Point ④

避難所について

11

現状把握ということで危機管理室から
各委員から出ました質問などをもとに
現状について説明を受けました。

ポイントとして4つにまとめています。

第1部

現状把握①

復旧・復興の対策

BCP（事業継続計画）

計画はあるがこれまで
あまり検討できていない

再確認が必要と考えている

Point ①

防災計画について



ポイント①

防災計画についてです。

復旧・復興の対策については、
交野市地域防災計画に記載はあるが
これまであまり検討できていないとのこと。

また、

BCP（事業継続計画）についても、
現状で再確認が必要と考えてるとのことでした。

第1部

現状把握①

市内全体の防災拠点

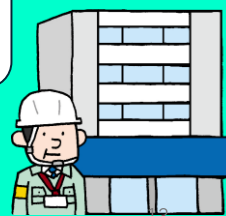
「くらじ」「こうづ」「きさべ」
「いわふね」「ほしだ」を5つの
地域に分割し、整備する

防災拠点機能

Point ②

総合防災拠点、地域防災拠点、
その他の拠点がある

防災拠点について



次に
ポイント②
防災拠点についてです。
防災拠点機能については、
総合防災拠点、地域防災拠点、その他の拠点があるとのことでした。

市内全体の防災拠点については、
「くらじ」「こうづ」「きさべ」「いわふね」「ほしだ」を5つの
地域に分割し、整備に努めるとのことでした。

第1部

現状把握①

備蓄計画見直し

令和6年度に改定。
備蓄は、重点11品目と
簡易トイレ・ベッドなど優先的に

備蓄倉庫・備蓄物品

Point ③

備蓄倉庫にある備蓄物品は、
ローリングストック

備蓄について



14

次に
ポイント③
備蓄についてです。
備蓄倉庫・備蓄物品については、
平時の取り扱いとして、
備蓄倉庫にある備蓄物品はローリングストックとしており、保存期限が
近付けば地域の防災訓練で配布しているとのこと。

備蓄計画の見直しについては、
令和6年度に改定し、備蓄方針としては、重点11品目に加え、
簡易トイレ・ベッド・パーテーション・ブルーシートなど
備蓄に努めているとのことでした。

第1部

現状把握①

避難所環境の改善・向上

令和6年10月に
避難所運営マニュアルを策定
地域における役割を明確化

個別地区の避難所計画

Point ④

地域ごとの避難計画は、重要
現在、**3地区**が計画作成済

避難所について



次に

ポイント④

避難所についてです。

個別地区の避難所計画については、

地域ごとの避難計画は、重要と考えており、現在は、

3地区（天野が原町地区、幾野地区、幾野アドリーム交野地区）が
計画作成済としているとのこと。

避難所環境の改善・向上については、

令和6年10月に避難所運営マニュアルを策定し、

地域における役割、また、避難所運営にあたる職員の役割についても
明確化したとのことでした。

第1部

テーマの背景

・現状把握②

市内の防災施設を視察し、
備蓄物品を体験することとなった。

Point ①

防災備蓄倉庫
(いきいきランド交野内)

Point ②

防災備蓄倉庫
(乙辺浄化センター内)

Point ③

備蓄物品体験
(市役所本館3階第一委員会室)

16

危機管理室から現状の説明を受け、実際に委員会でも
市内の防災施設や備蓄品などを見てみる必要があると考え、
視察を行いました。

視察したのは、いきいきランド、乙辺浄化センター内にある防災備蓄倉庫、
備蓄物品については、体験会を行いました。

第1部

現状把握②

アルファ化米（わかめご飯）
などの備蓄食を完備

ラックにて物品を
仕分け・保管

炊き出しセット完備

備蓄倉庫が手狭。

Point ①

防災備蓄倉庫
（いきいきランド交野内）



いきいきランドにある防災倉庫では、炊き出しセットやアルファ化米、アレルギー対応のクッキーなどの備蓄食を完備。

それらの備蓄物品は、仕分けされ、搬出が容易に出来るようにラックにて保管されていました。

こちらの備蓄倉庫については、すでにものが多く手狭であるとのことでした。

第1部

現状把握②

2階に毛布・
ブルーシートなどを備蓄

発災時、物品搬出
は、人海戦術!!

間仕切り・
簡易ベッド完備

Point ②

防災備蓄倉庫
(乙辺浄化センター内)



18

次に
乙辺浄化センターにある防災倉庫では、
間仕切り・簡易ベットなどが完備されていました。

毛布・ブルーシートなどは2階部分に備蓄されており、
発災時の搬出は、人海戦術とのことでした。

第1部

現状把握②

段ボールベッドを
組み立て体験



試食体験
(スープ・クッキー
・アルファ化米)



避難所用の間仕切り
テントも確認

Point ③

備蓄物品体験
(市役所本館3階第一委員会室)

お湯や水でも

19

次に
備蓄物品の体験会を視察後に行いました。

体験会では、危機管理室から説明を受け、
段ボールベッドの組み立てを体験し、
間仕切りテントや簡易トイレについても体験を行いました。

最後に備蓄食のスープ、クッキー、アルファ化米を試食させていただきました。

Roadmap

第1部 テーマの背景・現状把握

第2部 熊本地震の経験談と本市の取組み

第3部 課題を明確化!! 住民とともに!!

20

続いて、第2部 熊本地震の体験談と本市の取組み です。

第2部

熊本地震・ 本市の取組み

前震 平成28年4月14日
本震 4月16日

Point ①

熊本県熊本市

Point ②

熊本県八代市



熊本地震を経験し、復興も経験した
熊本市・八代市に**災害に強いまち**について聞く

熊本県

21

市内の状況を確認し、実際に地震で被災した経験を持ち、
そこから現在まで来られた貴重な経験を聞き、
その経験談を交野市でも生かすこと目的に
熊本県の2市に視察に行きました。

第2部

熊本地震

前震**6弱**、
28時間後に
本震**6強**を経験

Point ①

熊本県熊本市

人口
74万人

11万人が避難者

13万6千件の家屋被害

避難者の**4割**が車中泊



22

熊本市は、被災当時、
震度6弱の前震、震度6強の本震を含め、
合計5回の震度6弱以上の地震を経験されたとお聞きました。

その中で、

避難者は、**11万人**

家屋被害は、**13万6千件**

避難者の**4割**が車中泊を余儀なくされたとお聞きしました。

第2部

熊本地震

経験談

Point ①

熊本県熊本市

大災害が発生したら**問題ばかり**

本震時備蓄食料が**空**に

職員が**来れず**避難所の鍵が

避難者の**49%**がお客様状態

外部支援の**受入れ体制**取れず

大量の物資を**人の手**で荷下ろし

混乱する避難所、**物資・情報**届かず

etc. ²³

熊本市の危機管理部局の経験談として、
大災害がいざ発生したら、**問題ばかり**でなにも機能しなかったとおっしゃられていました。

その中でも前震で備蓄物品を搬出しており、
本震の際は備蓄倉庫が**空**になった。

職員が**参集できず**、避難所の鍵が開けられず、避難所開設が大幅に遅れた。

49%にもおよぶ避難者がお客様状態であった。

県外からの様々な支援も受援体制が**機能せず**受入れが出来なかった。

大量の物資の荷下ろしが**すべて人**であり、時間をかなり要した。

混乱する避難所では、物資も情報もスムーズには届かず。

など多くの問題が一気に押し寄せたとのことでした。

第2部

熊本地震

大災害が発生したら
本震時備蓄食料
市民・地域・行政の力にも限界が・・・

熊本県熊本市

大災害が発生したら
本震時備蓄食料
大量の物資を人の手で荷下ろし
混乱する避難所、物資・情報届かず

etc. ²⁴

市民・地域・行政の力にも限界が・・・
とおっしゃられていたのが大変印象的でした。

第2部

熊本地震

教訓から

Point ①

熊本県熊本市

再び来る!!
大規模災害に**備え**

備蓄食を**40万**食へ

積極的な**防災士**の活用

避難所ごとの開設運営マニュアル作成

地域との繋がり重視!! **担当職員**配置

BCP・受援計画の見直し

etc.
25

それらの経験から熊本市では、
再び来るであろう大規模災害に対し、様々な備えをしておられました。

備蓄食を市民の2割の人数、3食分に当たる**40万**食へ拡充。

積極的な**防災士**の活用。

避難所ごとに開設運営マニュアルを作成。

地域との繋がりを重視し、**担当職員**を3名、避難所ごとに
避難所付近に住む職員をマッチングしたとのこと。

県外からの支援受入れや通常業務の再開に苦労したことで
BCPや**受援計画**の見直しを行ったとのことでした。

第2部

熊本地震

Point ②

熊本県八代市

庁舎が被災し**使用停止**に

101カ所の避難所へ
食料搬送に苦慮

令和2年7月**豪雨**も大災害に

26

八代市は、
庁舎が被災し、**使用停止**となった。

101カ所の避難所へ食料を搬送することが大変苦慮したとのこと。

また、令和2年7月に起きた**豪雨**が大災害となり、
熊本地震と二つの災害を経験されたとのことでした。

第2部

熊本地震

経験談

Point ②

熊本県八代市

庁舎が被災し**仮庁舎**へ

備蓄物品を各避難所へ**搬送困難**

大雨で**孤立**、避難所行けず

etc.

27

八代市の危機管理部局の経験談として、
庁舎が被災し、**仮庁舎**にて復興業務を行ったとのこと。

備蓄物品を101カ所ある避難所に搬送することがとても
大変だったとのこと。

大雨で**孤立**し、避難所に行けない人たちが多くいたとのことでした。

第2部

熊本地震

教訓から

Point ②

熊本県八代市

市民の3割(3食) **14万**食を備蓄へ

避難情報等**配信アプリ**導入

衛星携帯電話を防災拠点に**22**台配備

災害対策**本部フロア**完備の新庁舎

自衛隊出身の**防災対策監**配置

etc.

28

それらの経験から八代市では、
再び来るであろう大規模災害に対し、様々な備えをしておられました。

備蓄食を市民の3割の人数、3食分に当たる **14万**食を備蓄へ。

避難情報等**配信アプリ**を導入し、あらゆるツールで市民に対し、
情報を発信できるように整備。

衛星携帯電話を防災拠点に **22**台配備。

新庁舎に災害対策**本部フロア**完備。

自衛隊出身の**防災対策監**を配置し、自衛隊との連携強化を
行ったとのことでした。

第2部

熊本地震・ 本市の取組み

Point ①

市内・市外視察を終えて

Point ②

担当部署への確認

視察後、委員会で振り返りを行い、
疑問点や本市の取組みを確認した



市内の防災施設、熊本県2市の視察を終えて、
委員会にて振り返りを行いました。

第2部

本市の取組み

基本的視点

Point ①

市内・市外視察を終えて

振り返りを行い

「災害に強いまちづくり」

「備える」

振り返りの中で

災害に強いまちづくりで大切なのは、

「備える」 ことではないかとなり。

第2部

本市の取組み

備える中で**公助・共助**が提言の柱となる。
どちらかではなくどちらも今の交野市には必要であり、
重要となる。

基本的視点

Point ①

市内・市外視察を終えて

公助
(市役所)
▼
もの・体制

共助
(住民)
▼
意識・訓練

31

備える中で、**公助・共助**が提言の柱となり、

公助・共助どちらかではなくどちらも今の交野市には**必要**であり、
重要となります。

第2部

本市の取組み

公助で見える課題とは？

備蓄倉庫

▼
スペース
手狭

備蓄物品

▼
量・種類の
検証・整理

受援力

▼
災害時の
受入れ体制

計画・
マニュアル

▼
機能する？

防災拠点

▼
これから整備

Point ①

市内・市外視察を終えて

32

公助で見える交野市の課題はということで、
委員会で各委員から出ました意見を集約し、ピックアップしています。

備蓄倉庫のスペースが手狭であったり、

備蓄物品の量や種類について検証・整理が必要では？であったり、

受援力が災害時の受入れ体制として整っているのか？であったり、

現在ある計画・マニュアルは、災害発生時に機能するのか？であったり、

防災拠点は、これから整備するがどう活用していくのか？
などです。

第2部

本市の取組み

共助で見える課題とは？

地域の計画

進んでる？

地域の取組

災害時に
対応できる？

住民の意識

避難所で
お客さん？

担い手育成

地域防災
リーダー

防災拠点

通常時からの
活用不可欠

Point ①

市内・市外視察を終えて

33

共助で見える交野市の課題はということで
同じく、ピックアップしています。

地域の個別計画は進んでいないのでは？であったり、

地域の現在の取組では災害時対応できないのでは？であったり、

住民の意識は、いざ大規模災害が起されば避難所でお客さんとはならないか？であったり、

担い手である地域の防災リーダーはいるのか？であったり、

防災拠点は、通常時からの活用が必要なのでは？

などです。

第2部

本市の取組み

危機管理室から

Point ②

担当部署への確認

備蓄倉庫

備蓄物品

避難所

etc.



34

視察を終え、振り返りを行い、

課題が出てきた中で

危機管理室にそれらの現状を確認しました。

第2部

本市の取組み

危機管理室へ

Point ②

担当部署への確認

初動の職員対応は？

→ 危機管理室職員で対応



避難所の開設方法は？

→ スタートボックスで対応

地域の防災リーダーは？防災士は？

→ 重要だが高齢化やなり手不足

etc.

35

確認の中で印象に残っているものをピックアップしています。

災害が起きた際の初動の職員対応はどうなっているのか？

現状は、危機管理室職員で対応している。

避難所の開設方法は？

スタートボックスを用意しているため、それを職員が
もって行き、対応する。

地域の防災リーダーはどうなっているのか？そのなり手として防災士を
活用できているのか？

防災リーダーも防災士も重要と認識しているが高齢化やなり手不足
が問題となっている。

などです。

Roadmap

第1部 テーマの背景・現状把握

第2部 熊本地震の経験談と本市の取組み

第3部 課題を明確化!! 住民とともに!!

36

続いて、第3部 課題を明確化!! 住民とともに!! です

災害に強いまちづくり

基本的視点

「備える」

危機管理室 から聞取り

見えた **課題** は ! ?

37

危機管理室からの聞取りを行い、
課題やウィークポイントが見えてきました。

それでは、その**課題**とはということで ! ?

公助で見える課題とは？

備蓄倉庫

▼
スペース
手狭

備蓄物品

▼
量・種類の
検証・整理

受援力

▼
災害時の
受入れ体制

計画・
マニュアル

▼
機能する？

防災拠点

▼
これから整備

38

こちらは、交野市の公助で課題と考えていたものです。

危機管理室から聞取りを行い、委員の皆さんのご意見をもとに提言のポイントとなるものをピックアップしています。

『備蓄倉庫』『備蓄物品』『防災拠点』があげられます。

共助で見える課題とは？

地域の計画

▼
進んでる？

地域の取組

▼
災害時に
対応できる？

住民の意識

▼
避難所で
お客さん？

担い手育成

▼
地域防災
リーダー

防災拠点

▼
通常時からの
活用不可欠

39

こちらは、交野市の共助で課題と考えていたものです。

危機管理室から聞き取りを行い、委員の皆さんのご意見をもとに提言のポイントとなるものをピックアップしています。

『地域の取組』 『住民の意識』 『担い手育成』
『防災拠点』 が挙げられます。

課題が明確化

「災害に強いまちづくり」



「備える」



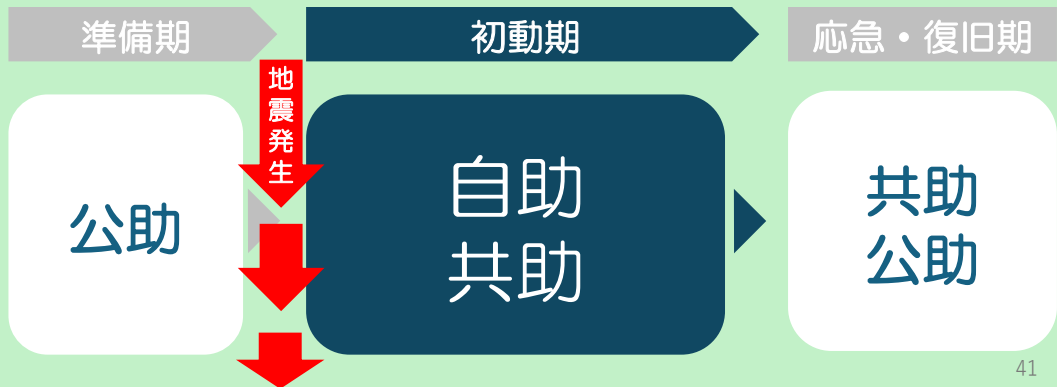
災害発生時の初動期を重視!!

40

課題が明確化する中で、
基本的視点であった『**備える**』に着目しながら、
市内・市外へ視察に行き、交野市の現状を確認し、
見えてきた課題やウィークポイントは、
災害発生時の『**初動期**』の動きでした。

課題の核となる部分はここ！！

大規模災害が発生、初動期に、市役所は機能しない



41

見えてきた課題やウィークポイントは

災害発生時の『初動期』の動きであり、

特に災害の規模が大きくなればなるほど市役所は機能しない。

初動への備えに弱い部分があることが分かりました。

ということで提言の核となる部分はここ！！

『初動期』がそれにあたることになります。

初動期

大規模災害が発生
消防・市役所は・・・

大地震

住民が自ら



42

ここからは、大規模災害時の初動期がどうなるかです。

あくまで『**壊滅的な大地震**』を前提としたものとなります。

ここからは、震度6強から震度7を想定してもらえればと思います。

発災時は、当然、道路も寸断されています。

消防も市役所も機能しません。

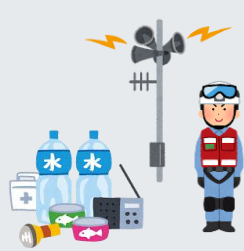
全て住民が自ら行う必要があります。

大規模災害発生後のタイムライン

【震度5強以上】

初動期

応急・復旧期

発災後	3時間まで	24時間まで	72時間まで	72時間以降
危機 管理室 (本部指揮)	・ 職員の安否確認、執務室の安全確認、来庁者等の救護、インフラの確認・復旧、体制の確立 ・ 災害対策本部・現地対策本部の設置、運営 ・ 庁内部局との連絡調整(BCP関連業務など) ・ 大阪府、自衛隊等の防災関係機関との連絡調整 ・ 被害情報の収集、分析 ・ 情報通信手段や電力等の確保 ・ 救出・救助及び被害情報の整理		・ 自衛隊等の派遣要請 ・ 被災者支援の情報収集等 ・ 救援物資等の輸送調整、受け入れ 	・ 各種災害対策調整 ・ 被災者への支援策調整 ・ 各防災関係機関との調整 
	など			

43

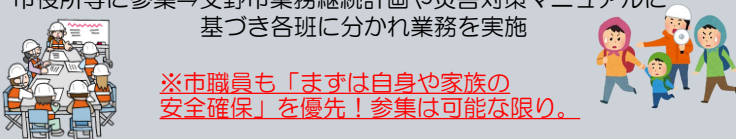
43

市役所が機能しないと言いましたが
市はどのような動きを想定しているのでしょうか？

危機管理室は、発災後の初動期の24時間までで
職員の安否確認やインフラ確認、災害対策本部の設置などを行い、
72時間までに自衛隊等の派遣要請などを行います。

大規模災害発生後のタイムライン

【震度5強以上】

初動期				応急・復旧期
発災後	3時間まで	24時間まで	72時間まで	72時間以降
本部員 (市長・副市長・部長級)	・災害対策本部の設置 ・職員を各班(物資班・医療衛生班・給食班など)へ派遣	交野市業務継続計画や災害対策マニュアルに基づき、各課・各班の非常時優先業務を実施		・被災者支援 ・インフラ復旧調整 ・応援受援体制調整
市職員 (本部員以外)	市役所等に参集⇒交野市業務継続計画や災害対策マニュアルに基づき各班に分かれ業務を実施 <u>※市職員も「まずは自身や家族の安全確保」を優先！参集は可能な限り。</u> 			・避難者のニーズ把握 ・QOLの確保、相談 ・行政サービスの継続
議会	・交野市議会災害対策連絡会議の設置 ・自らの安否・居場所を報告 ・各地域の被災及び避難所等の状況報告および市対策本部へ提供			・議会の機能維持 ・行政復興計画の確認 ・被害状況の確認
市民	 避難・安全確保・情報収集・避難所開設、運営 			

44

本部員は、災害対策本部に召集され、各班の対応に当たります。

災害対策マニュアルなどに基づき非常時の優先業務に当たります。

ただし、これは、計画やマニュアルの話であり、先ほども言いましたが発災時すぐには、市役所は機能しないと
言いました理由がここにあります。

それは、災害対応の核となる市の職員の参集がどれだけできるのか？

市の職員もまずは、自身や家族の安全確保を行った上で、可能な限り、参集することとなります。
また、公共交通機関や道路等の寸断も参集の妨げとなります。

発災直後の職員参集は、熊本市の危機管理担当者さんも
言っておられましたが極めて困難であると考えます。

初動期

自助

共助

災害発生時は
安否確認も・・・

住民が自ら



45

そのことから

大規模災害時は、安否確認も

住民が自ら行う必要があります。

家族やご近所の人々の安否確認を住民が自ら行うことが求められます。

初動期

自助 共助

災害発生時は
避難所開設も・・・

住民が自ら



避難所開設も

住民が自ら行う必要があります。

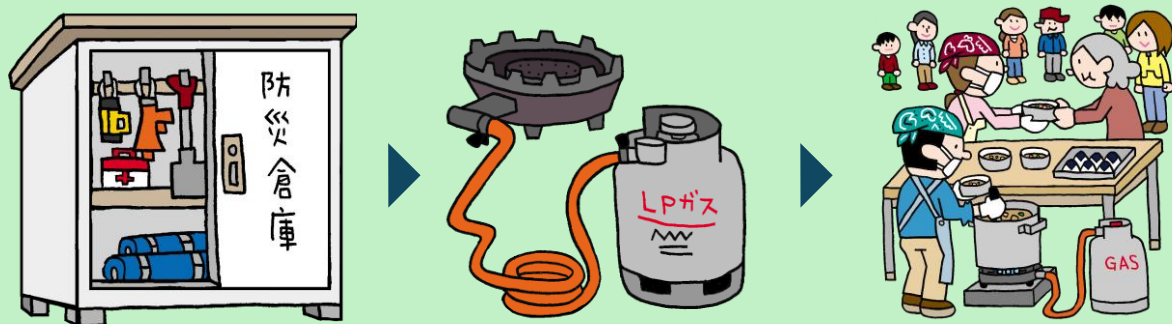
災害用の毛布や防災用のテントや間仕切りを使って
住民が自ら避難所を開設することが求められます。

初動期

自助 共助

災害発生時は
避難所運営も・・・

住民が自ら



47

避難所運営も

住民が自ら行う必要があります。

炊き出し用の機材や備蓄食を使って
住民が自ら避難所を運営することが求められます。

初動期

自助 共助

災害発生時になにが出来るのか

必要なことは？必要なものは？



48

大規模災害発生時の初動期に『自助』『共助』を

行うために必要なことは？必要なものは？

なにができるのか？

初動期

自助

共助

初動に必要な動きを
住民自らが行動できる
仕組み・体制を市が整える。



49

答えは、初動に必要な動きを

住民自ら行動できる

仕組みや体制を市役所が整えることだと考えます。

災害時に機能する備えをすることが**今できること**ではないか
と考えます。

初動期への備え

見える備えとして、
身近な地域の**防災倉庫**へ



各地域に建設される防災倉庫

中身がわかる看板設置



etc. 50

それでは、
今できることとして、
委員会で出ました具体的な取り組み例を4つ
挙げたいと思います。

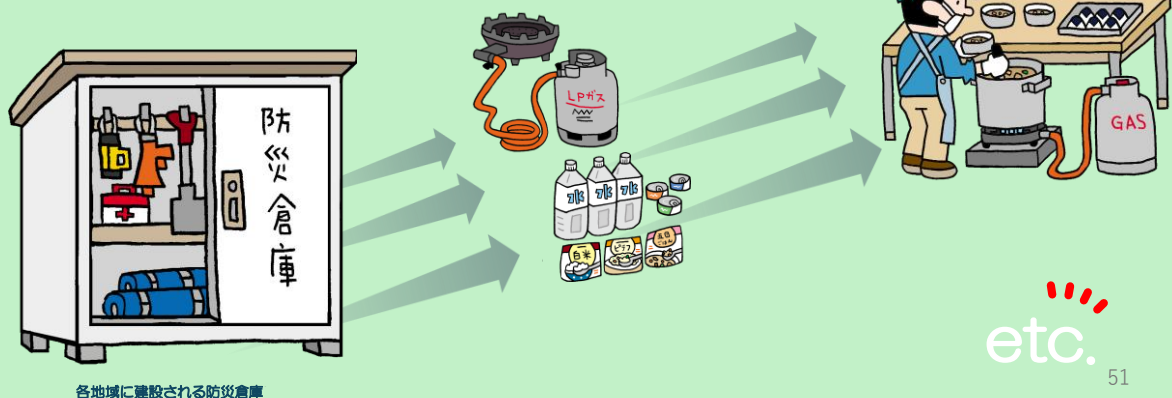
こちらは、
市内の各所に建設する**防災倉庫**に
中身がわかる看板などを設置してはどうか？

設置することで住民が日頃からこの中身はこんなものがあり、
ここに来ればこれがあるということが分かります。

初動期への備え

日頃の訓練で防災倉庫活用

見える備えとして、
身近な地域の**防災倉庫**へ



各地域に建設される防災倉庫

こちら、
市内の各所に建設する防災倉庫に関してですが
日頃の地域の防災訓練で**防災倉庫**の中にある炊き出しセットなどを
活用し、炊き出し訓練をしてはどうか？

そうすることで災害発生時に避難所の運営も
スムーズに出来るのではと考えます。

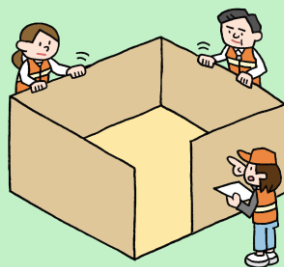
初動期への備え

地域住民を中心に日頃の訓練で

見える備えとして、
住民自らが避難所を**開設**へ



防災・地域のリーダー



etc. 52

こちらは、
地域の防災リーダーが中心となり、
日頃の訓練から顔の見える関係を作れる仕組みがあれば。
また、防災士育成に力を入れてはどうか？

そうすることで、住民自らが避難所を**開設**することも
スムーズに出来るのではないかと考えます。

初動期への備え

地域住民を中心に日頃の訓練で

見える備えとして、
住民自らが避難所を**運営**へ



防災・地域のリーダー



etc.⁵³

こちらは、
地域の防災リーダーが中心となり、
日頃の訓練から地域住民で避難所**運営**が出来る仕組みがあれば
良いのではないかと？

そうすることで、住民自らが避難所を**運営**することも
スムーズに出来るのではないかと考えます。

初動期への備え

このような
体制・仕組み作り、働きかけが
考えられる中で



54

このような
体制や仕組みづくり、働きかけが考えられる中で

初動期への備え

市内の防災倉庫を
住民が自ら使えるものに



各地域に建設される防災倉庫



自助 共助



こちらが提言となります。

将来起きるであろう大規模災害を前に
今できることとして、
市内の各所に建設する防災倉庫を住民が自ら
使えるものにや
それらを日頃から住民に対し、伝えていくことが必要

であったり、

初動期への備え

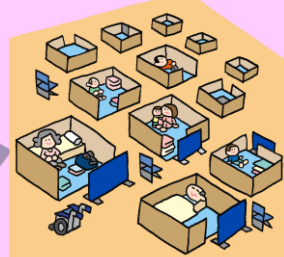
住民が自ら避難所を
開設・運営できる仕組みを



防災・地域のリーダー



自助 共助



56

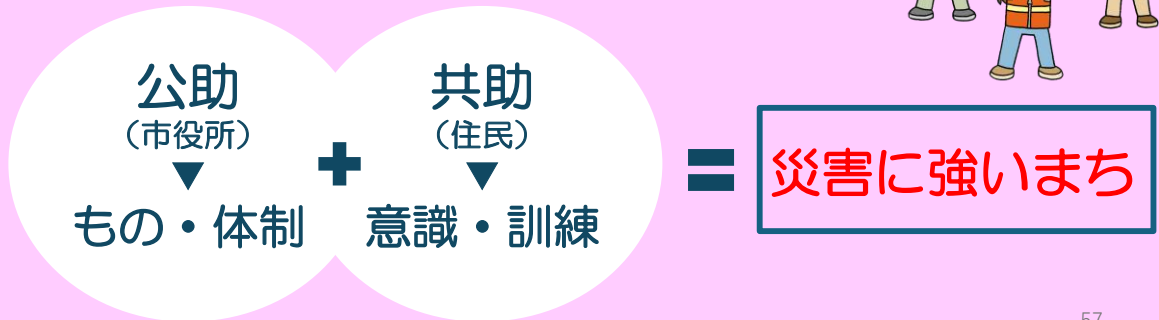
住民が自ら避難所を
開設・運営できる仕組みを作り、周知する。

の2つを提言とします。

災害に強いまちづくり

日頃から**備える**中で**公助・共助**が交わることで、

大規模災害がいざ、起きても機能する**組織**を



57

最後にテーマである

『災害に強いまちづくり』をするのであれば

日頃から**備え**を行う中で公助と共助が重要であり、

それらが交わることで大規模災害がいざ起きても機能する**組織**が出来るのではないか。

公助と共助が機能することで初めて『**災害に強いまち**』になるということが分かりました。

いつ起こるかわからない災害に対し、備え続けることは、大変だとは思いますが市も議会も一丸となり、**災害に強いまちづくり**が出来ればと考えます。

以上で総務文教常任委員会の発表を終わらせていただきます。
長い時間、ご清聴ありがとうございました。